

あさなえJネットNEWS

光市立浅江中学校コミュニティ・スクールだより 平成28年度第3号



あさなえJネット

双コトキャラクタ-「つながりん」

あさなえJr.が、市民対話集会で浅江地区の未来に向けたメッセージを発表しました！



「15歳は地域の担い手」を合言葉に活動している浅江中学校3年生「あさなえJr.」が、6月1日（水）に、浅江コミュニティセンターで行われた「市民対話集会2016」において、「We Love ASAE For ever!!」をテーマに、20年後の光市について、人口減少や少子高齢化の現状と中学生の意識についての調査結果をもとにしながら、「将来住みたいまち」の具体像や、「住みたいまち」にするための5つの提案などを、プレゼンテーションや寸劇を交えてと発表しました。

「市民対話集会2016」は、光市内5地区で開催され、この日の浅江地区は最終日。5地区中最多の134人の参加者があり、あさなえJr.の発表が終わると、会場は大

きな拍手に包まれました。また、光市の市川市長さんからも、「浅江中の生徒の皆さんの発表には度肝を抜かれました」等、大変なお褒めの言葉をいただきました。

また、質疑では参加者の方から生徒へ「将来浅江に住みたいですか？」という質問もありましたが、自分の将来の夢を交えながら堂々と答えることができました。

We love ASAE Forever!!

みんなで考えよう
20年後の光市
～理想の未来を実現する
ために 私たちが
できること～

発表内容

◇第1部

人口減少・少子高齢化の現状と中学生の意識について

浅江中3年の88%が「将来、浅江に住みたい」

◇第2部

将来「住みたいまち」とはどんなまち？

誰もが「幸福感」をいただけるまち ～安心できるまち、活力のあるまち、高齢者が住みやすいまち～

◇第3部

「住みたいまち」にするための5つの提案

- ①「挨拶プラス1」で安心の輪を広げる
- ②「中学生の企画段階からの参画」により地域行事を活性化させる
- ③「学校と高齢者福祉施設の併設」により高齢者の元気アップ
- ④「地域の担い手のバトン」をつなぎ、後継者を育てる
- ⑤「学び合い」「協働」「創造」により「浅江モデル」を生み出す



あさなえ農園にサツマイモの苗を植え付けました！

去る6月14日（火）に、浅江中学校の北側の角にある、通称「あさなえ農園」に、あさなえ学級の生徒7名と教員、校外コーディネーターの太田さん、平木さん他6名の地域の方々がサツマイモの苗（約100本）を植え付けました。植え付けたばかりの時は日照が強く苗は元気がないように見えたが、今では梅雨の雨をたっぷり吸ってすくすくと成長しています。

成長したサツマイモは10月頃に収穫する予定です。大きくておいしいサツマイモがたくさん収穫できることをみんなで楽しみにしています。



「サンドアート in 光」のポスター制作を依頼されました。

毎年夏に行われる恒例行事「サンドアート in 光」（主催：サマーイベント実行委員連絡協議会）の開催を知らせるポスターの制作を、今年度も浅江中学校の情報デザイン部が担当することになりました。

去る6月10日（金）に、「第24回サンドアート in 光」実行委員長で本校学校運営協議会「あさなえJネット」の企画推進委員でもある田村和民さんと校外コーディネーターの太田俊紀さんが来校され、情報デザイン部の生徒たちにポスターに盛り込む内容やイメージについての説明をされました。田村さんは「インパクトがあるポスターにしてほしい」「虹ヶ浜のよさをアピールしてほしい」など、ポスターに関する具体的な説明をされた後、生徒たちからの質問に答えながら、ご自身の子供時代の虹ヶ浜にまつわる思い出を熱く語っておられました。

生徒たちの制作したポスターは審査の上で1点を選考し、完成作品は光市内各施設に掲示され行事を盛り上げることとなっています。どんなポスターができあがるか楽しみです。

なお、「第24回サンドアート in 光」は、平成28年8月3日（水）12:30～虹ヶ浜海水浴場東側で行われます。（雨天中止）



ポスターの説明をする田村さん



情報デザイン部の部員から具体的な質問